

学級 道徳学習指導案

場所 教室
授業者 小林 ちよ子

1. 主題構成表

主題名 「すてきなあいさつ」

資料名 「いつでも どこでも」(文溪堂)

<p>内容項目 2 - (1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。</p>	<p>価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none">日常生活におけるあいさつは望ましい人間関係を築くために身に付けておくべき最も基本となるものであり、人とのコミュニケーションのための第一歩である。心のこもったあいさつは、相手の気持ちを明るく、気持ちよくするものであり、社会生活をスムーズにするものである。一日の生活の中で時と場に応じた大切なあいさつがたくさんあることに気付かせることは、様々な場でみんなと楽しく明るく生活することができるようになり、仲間とのつながりがさらに深まることになる。コミュニケーションがとれるようになってきている本児にとって、あいさつを日常生活で使えるようにしていくことは、大変重要と考える。	<p>資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none">本資料は、学校や家庭における児童の日常的なあいさつの場面を取り上げたものである。6つの場面の絵で構成されている。 登校時 「おはよう」 教室から飛び出した時 「ごめんなさい」 飛行機をとってもらった時 「ありがとう」 出かける時 「行ってきます」 別れる時 「さようなら」 寝る時 「おやすみなさい」 のあいさつについては、やや質の高いあいさつなので、できる範囲で扱っていきたい。本資料とともに「こころのノート」の場面の絵を活用して指導したい。場面を大切にして、いろいろなあいさつの役割演技などを通して、あいさつが自然に出てくるような習慣づけのきっかけとなるようにしていきたい。
<p>児童の実態(年1名)</p> <ul style="list-style-type: none">発音は不明瞭ではあるが、少しずつコミュニケーションをとろうとしている。あいさつにおいても、自分からはできないが、ようやく返すことができるようになってきた。声が出しにくく、はっきりとあいさつができないので、時間をかけて指導が必要である。意識の要因あいさつを交わせば、気持ちがよいという体験が少ない。時と場に応じた適切なあいさつのことばを習得していない。		

ねらい
・家庭や地域、学校で出会う人たちの絵を通して、どんなあいさつがあるのか知り、気持ちのよいあいさつに心がけて明るく接しようとする心情を育てる。

展開の構想

- 場面ごとの絵を見ながら、今何をしているところなのか考えさせる。
- どんな時にどんなあいさつがあるのかを確認させる。
- 場面ごとの絵を見ながら、役割演技を交えてあいさつの練習をする。
- あいさつをすることによって気持ちよくなることに気付かせる。
- あいさつを今後も進んで交わせるように意欲づけをする。

基本発問(中心発問)
今何をしているところですか。

どんなあいさつがありますか。

あいさつをいっしょにしましょう。

あいさつをするとどんな気持ちになりますか。

これからもあいさつの輪を広げましょう。

